

平成29年11月12日

No161

〈美田も残す〉

平成29年度我が国の予算は、一般会計歳出総額97兆円、うち社会保障32兆円(33.3%)、防衛5兆円(5.3%)、国債償還23兆円(24.1%)、債務償還費14兆円、文教及び科学振興5兆円(5.5%)となっています。一般会計歳入総額97兆円、うち租税及び印紙収入57兆円(59.2%)、公債金は34兆円(35.3%)となっています。租税収入のうち最も多いのは所得税17.9兆円(18.4%)、次に消費税17兆円(17.6%)です。公債金(借入額)34兆円、債務償還費(借入返済額)14兆円、差引を20兆円の借入増となります。財務省コラム「我が国財政を家計にたとえたらには、我が国の一般会計の手取り月収30万円の家計にたとえると、毎月給料収入を上回る38万円の生活費も支出し、過去の借金の利息支払い分を含めて毎月18万円の新しい借金もしている状況です。家計の抜本的な見直しをしなければ子供に莫大な借金も残り、いつかは破産してしまうほど危険な状況です。」と説明しています。歳出の中で社会保障が33.3%と一番多いです。社会保障とは「医療」「年金」「福祉」「介護」「生活保護」などの公的サービスです。ネット上で多くの社労士の先生方が助成金のアドバイスをしています。「助成金の財源は、支払っている雇用保険料で、払いっぱなしにするのはもったいないです。何かしら条件に当てはめ助成金受給という形で最大限恩恵を受けましょう」と申請件数を競っています。雇用保険の目的は「労働者の生活及び雇用の安定を図るためです。」けして、経営者のためではありませんので、受給したら社員さんに還元をしましょう。何にせよ国の借金は増え続けています。子供、孫に押し付けています。助成金をもらうことより、利益を出し、税金を払い、経営をしていきましょう。

高井幸裕